

JST/CRCCシンポジウム 「現代のシルクロード構想と 中国の発展戦略」へのコメント

平成28年2月22日
津上工作室代表
津上俊哉



アジアインフラ投資銀行（AIIB）問題

1. 当初の中国AIIBプランはたしかにヘンだった

- 中国が半分を出資、総裁も本部も中国…

2. しかし、世界には米国の身勝手への不満も充満

- 米を含めて国際合意したはずのIMF改革が米議会でブロック=おかしい

3. 日本メディアは1.だけを報じ、2.を報じなかつた

→50ヶ国以上が参加する新事態に慌てふためく結果に

• 50ヶ国の参加は中国にとっても「想定外」、嬉しい誤算であると同時に、手前勝手な運営はできなくなった

- AIIB設立で、世銀やアジア開銀は「反省」←途上国はこれだけでも評価
- 運営が脱線するリスクは減るが、同時に多難さも予想される？
- 意外と「国際貢献」に徹する割り切りをする可能性があるのでは？

中国の中で見たAIIB -- シルクロード基金との「確執」

- 中国ではAIIBよりも「シ」基金が優勢
 - 分かり易い国内利益(過剰設備解消等)を掲げて
 - 「シ」基金との競争により、AIIBには厳しい未来が待つ?
- 中国はインドネシアの鉄道事業の援助条件で日本を圧倒
 - 非常識な条件の借款供与は、今後「シ」基金が引き継ぐ?
←インフラ受注競争で手強いのはAIIBよりも「シ」基金
- 「シ」基金の壮大なユーラシア横断鉄道は「見せ球」?
 - 人民銀行中心の事務局は手堅く金融投資家的な運用
初号案件：パキスタン水力発電所（世銀グループIFCも出資参加）
2号案件：中国化工集団によるピレリ(タイヤ)買収に参加
3号案件：ロシアのヤマルLNGプロジェクトに資本参加
- 「海外での大盤振る舞い」に対して中国世論は厳しい眼
→「非常識な援助方式は長続きしない」という達観も必要
- 「シ」基金はノーマーク、AIIBばかりを目の敵にするのはヘン

アジアインフラ投資銀行（AIIB）

日本はどう対応すべきか

- 当分「若葉マーク」のAIIBを観察、その間ADB,JBIC,JICAがコラボ事業を実施、その結果を踏まえて2~3年後に再判断すべき
 - ①コラボ作業を通じてAIIBを「国際慣行」に誘導、味方につける
 - ② // // AIIBの「組織・スタッフとなり」を観察
 - ③ // // AIIB側にも信用格付けup等のメリットあり
- 「外から半分参加」して、日本企業のビジネス・ハンディ緩和、同時に参加要請され続ける立場をキープ(フリーハンド温存)
- 日本企業は「一带一路」やAIIBにどう対応すべきか
 - ①(日本)政府が参加していないなくても、悪びれずに中国に「営業」せよ
 - ②紐付き「一带一路」事業へのベンダー参加はかえって実現し易い?
 - ③中国とのプライム競争(新幹線、原発...)はビジネスマインドで